

シリーズ① 医療費の増加が危機を招く 小郡市の国民健康保険(国保)

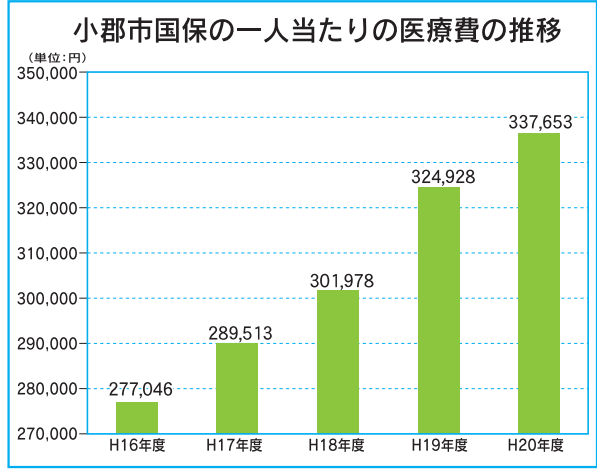
国民健康保険(国保)は職場などの健康保険や長寿(後期高齢者)医療制度医療を受けている方や生活保護を受けている方を除いて、すべての方が加入することになっています。

国民皆保険制度により国民全員が何らかの医療保険に加入することになっており、国保は、その医療保険のひとつで、病气やけがをした時に安心して医療機関で受診できるように、みんなで助け合う制度で各市町村が運営をしています。

小郡市の平成20年度の国保の加入者は13,683人で、市民の約23%の方が加入しています。

**ピンチ！
増え続ける医療費**

小郡市における国保加入者の「一人当たりの医療費」は年々増え続け、平成16年度から平成20年度までの5年間で60,607円増となり、337,653円(福岡県速報値)に達しています。



最近では平成18年度に診療報酬の改定率が3・16%減、平成20年度には0・82%減になってきているにも関わらず、医療費は増加の一途をたどっています。このことは診療報酬の改定率に比べると、医療費の増加率の方がはるかに大きいことを示しています。今年度は新型インフルエンザが流行し、国保会計上予断を許さない状況にあります。この医療費増加傾向は今後も続くと考えられます。

医療費はなぜ増えるの？

医療費はなぜ増え続けるのでしょうか。様々な理由が考えられますが、主なものとしては次のようなことがあげられます。

● **生活習慣病の増加および重症化**
食生活の乱れや運動不足等、日頃の悪い生活習慣が大きな要因で起る生活習慣病にかかる人が増えてきています。
長年かけてつくられた病气は一朝一夕には治らず、一度発症すれば長期間の治療が必要となります。そのようになれば医療費はかさみ、自己負担の金額も大きなものとなります。
例えば、生活習慣を改善することなく重症化した病气によっては、年間五百万円以上の医療費になることもあり、国保財政に大きく影響してきます。

● **精神疾患の増加**
統合失調症(うつ病などを含む)など現代社会におけるストレス等が要因の一つと思われる精神疾患の方で、入院される方が年々増え、それにあわせて医療費も増えていきます。

● **医療技術の進歩・高度化**
新薬の開発や医療機器の高度化など、医療の進歩・高度化は目覚ましく、医療費が増える一因となっています。

● **社会の高齢化**
医療を受ける回数や期間が長引く高齢者が増えたことにより、医療費も増えていきます。

● **医療機関へのかかりかた**
病気の症状が出ているにも関わらず時間内に受診せず、後からひどくなつて夜間診療、休日診療を受診したり、また、同じ症状でいくつもの医療機関にかかったりすると、同様の検査を受けたり、同じような薬をもらったりすることとなり、むだな医療費を増やすこととなります。

■ 次回4月号広報にて、医療費の詳細についてお知らせします



家計の負担・医療費の負担を減らすために

「ジェネリック医薬品」を利用しましょう



ジェネリック医薬品希望カードを

3月下旬に国民健康保険証と一緒に送付します

小郡市では、3月下旬に国民健康保険に加入している世帯へ「ジェネリック医薬品希望カード」を平成22年度の国民健康保険証と一緒に送付します。

医療機関や調剤薬局でこのカードを提示すると、ジェネリック医薬品を希望する意思があることを伝えることができます。

ジェネリック医薬品希望カードの送付は一世帯に一枚（4人までの署名可）ですが、追加で希望する人には、市役所本館1階、国保年金課国保係（番窓口）で配布します。

●家計の負担を軽くするジェネリック医薬品

お医者さんから処方される薬には、新薬（先発医薬品）とジェネリック医薬品（後発医薬品）の2種類あります。医薬品の開発には、長い時間と多くの費用がかかることから、新薬は一定期間、

独占的に製造・販売できるよう特許に守られています。

しかし特許の期間が過ぎれば、同じような効果のあるジェネリック医薬品を開発することができます。ジェネリック医薬品は短期間で開発・製造することが可能で、開発費用も少ないため、安価に販売することができます。

新薬に比べて薬によっては3割以上中には5割以上安くなるものもあり、ジェネリック医薬品を選択すると、薬代が大幅に節約できます。

薬を併用している人や長期間飲み続けている人ほど、家計の負担は軽くなります。

●安心できる医療保険制度を維持するために

医療費の増大は国民皆保険制度の崩壊につながります。

厚生労働省の調査によると国民医療費は年34兆円（厚生労働省「平成20年度医療費の動向」）を超え、薬剤調剤医療費も年々増えています。

国は医療費削減のためにジェネリック医薬品の普及率を平成16年度の16・8%から平成24年度までに30%にするという目標を設定しています。

もし、小郡市でジェネリック医薬品の普及率が30%になると約2千5百万円の医療費削減が見込まれます。

福岡県は第一期医療費適正化計画の中でジェネリック医薬品の使用を推進することになっています。

皆さんがジェネリック医薬品を選択すると、窓口で支払う自己負担額が節約できるだけでなく、年々増え続ける国民健康保険の医療費節減にもつながるのです。

使用するときには医師・薬剤師にご相談を

すべての医薬品にジェネリック医薬品があるわけではなく、治療のためには新薬しか使用できない場合もあります。

また、すべての医療機関や調剤薬局で取り扱われているわけではありませんので、対応できない場合もあります。また薬の一部には、新薬よりもジェネリック医薬品の方が高くなる場合もあります。

ジェネリック医薬品の使用については、かかりつけのお医者さんや薬剤師さんに十分ご相談いただきますようお願いいたします。

ジェネリック(後発)医薬品希望カード

私(達)は
ジェネリック(後発)
医薬品を希望します。



■小郡市国民健康保険 国民健康保犬 KENTA(健太)君

■問い合わせ先 国保年金課 国保係 内線 424, 425